

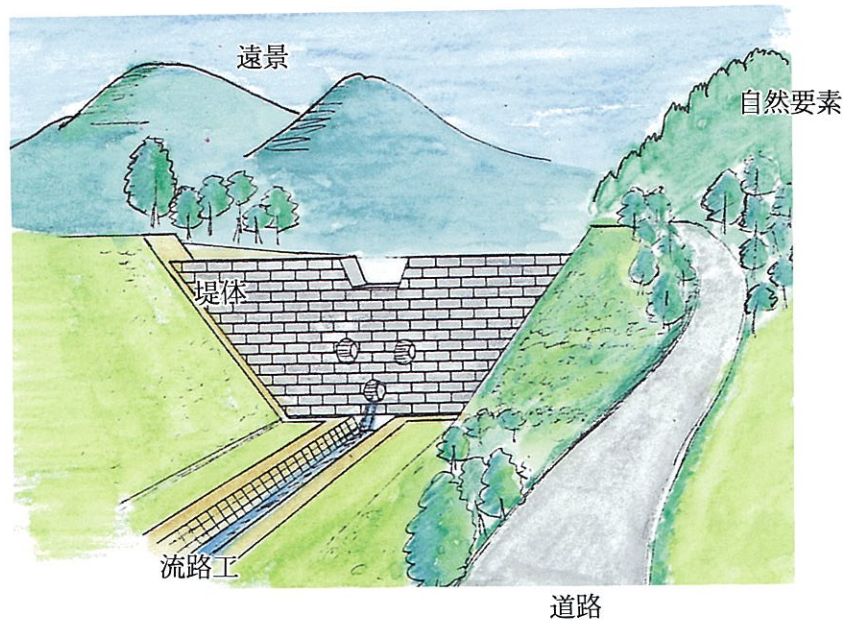
4 ダム・堰堤等

4.1 ダム・堰堤等の景観について

■ 小規模ダム・堰堤等

● 小規模ダム・堰堤の景観構成要素

ダム・堰堤及び周辺の景観は、下流側のせせらぎの溪谷空間、景観の中心となるダム本体及び遠景としての山岳、森林などに分類される。



● 小規模ダム・堰堤等の特徴的な景観

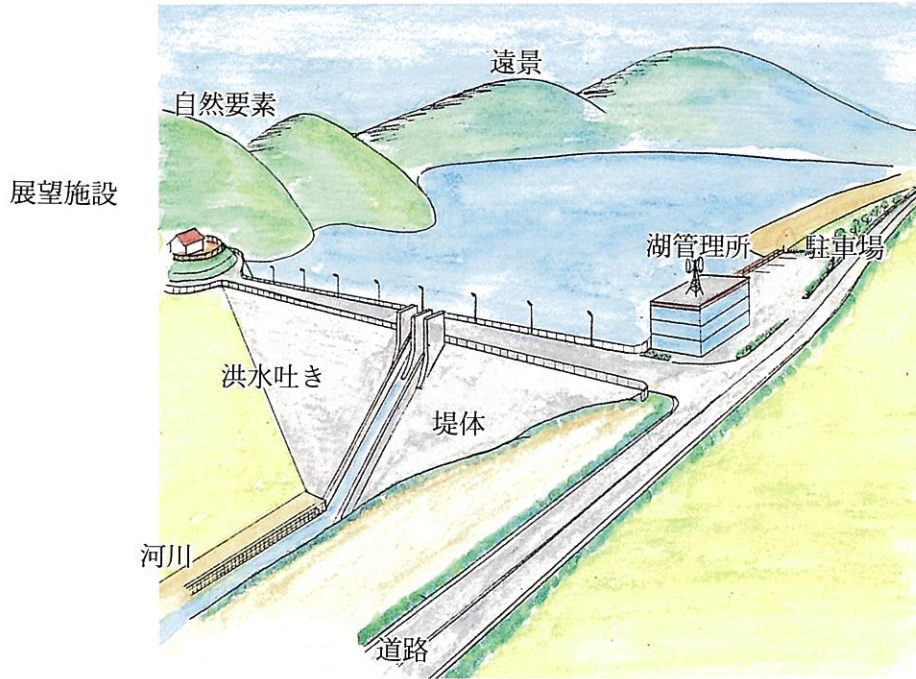
小規模ダム・堰堤等の空間に特徴的な景観は、下流側からダム・堰堤等の堰体を見る景観で、これらの景観は対象と視点（距離、角度）、天候、時間等により多様に変化するものである。

■ 大型ダム

大型ダムは、人工構造物の中で最大級のものであり、治山、砂防、治水、利水施設としてのダムの重要性は非常に高い。一方、雄大でまた周辺の自然景観と調和したダムの姿は、美観の中心要素ともなりうるものである。

●大型ダムの景観構成要素

ダム・堰堤及び周辺の景観は、景観の中心となる雄大なダム、上流側の豊かな湖の空間及び遠景としての山岳、森林などに分類される。



●大型ダムの特徴的な景観

ダムの空間に特徴的な景観は、その景観（対象）を目にする視点の位置との関係から次の様に分類できる。

- ①下流側からダム・堰堤等の堤体を見る景観
- ②ダム・堰堤等の天端周辺から見る景観（上流側、下流側）
- ③ダム・堰堤等を上流側から見た景観

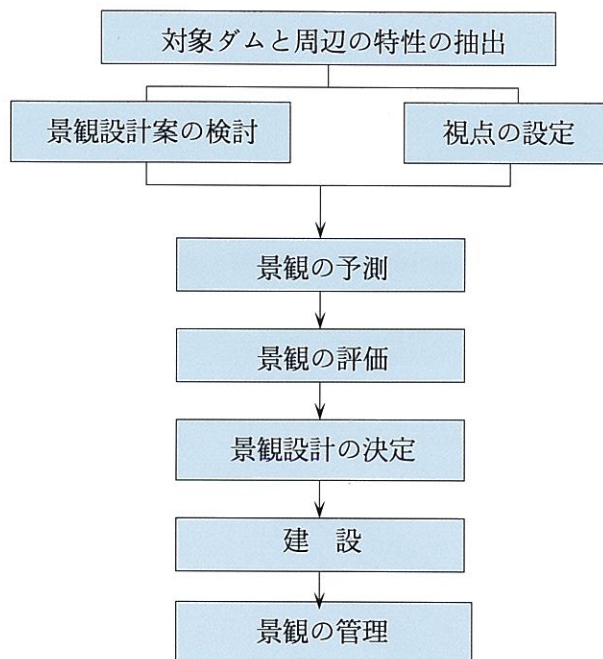
これらの景観は対象と視点の関係の他に、天候、時間等により多様に変化するものである。



布部ダム（広瀬町）
堤体周辺に植栽をして景観を和らげている

●景観設計の手順

大型ダム及び周辺に関する景観設計の検討にあたっては次に示す手順によるものとする。



●大型ダムの計画の考え方

配慮点	内 容
①自然と構造物との調和を図る	自然と構造物の調和を図るために、工事により損なわれた自然の復元や自然と調和する配色・形状等に工夫する (例：植生復元、化粧型枠の使用)
②形状をできるだけシンプルにする	ダム本体のシンプルなフォルムを強調するために、全体の形状を単純化して、ダムの構造美を引き立たせる (例：附属設備が本体に比べ大きすぎないように配慮する)
③ダム天端のシルエットを整える	ダム中央部では、ゲートやゲートハウス、ピア等の高さを低く抑え、他と揃えダム天端のシルエットを美しくする
④設備等のデザインを工夫する	付帯施設等のデザインを工夫することによってダム本体との調和を図ることが望ましい
⑤素材、配色等をできるだけ統一する	ダム本体とゲート等の付帯設備が一体となって美しい景観をつくりだすためには、ダム全体の素材・配色等をできるだけ統一させる
⑥設備等の配置に規則性を持たせる	ダム全体の形状にバランスを保ち、またリズム感を与えるためには、付帯設備等の配置に規則性を持たせる。とくに、ゲートハウスやピア、導流部操作室、照明設備等については重要である

資料：「ダムの景観設計」建設省

4. 2 景観整備の考え方

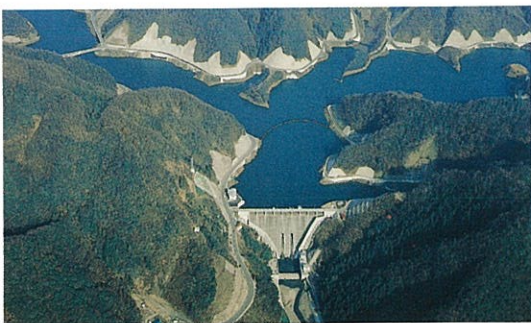
ダム・堰堤等は、治山、砂防、治水及び利水など、重要な役割を果たしているが、大規模な構造物であることから、周辺の環境に大きな影響を与えるため、周辺の環境の変化と景観に特に配慮する必要がある。

■整備の考え方

1. 自然景観の改変をできる限り抑えるなど、周辺の景観と調和するよう努めること。
2. 地域の整備計画と整合した良好な景観と新しい水辺空間の創出に努めること。

●特性・視点

- ダム・堰堤等は、治山、砂防、治水及び利水をはじめとする諸機能を持ち、社会生活に果たす役割が非常に大きい。そのため安全性や機能性を確保した上で、周辺の景観との調和を図る必要がある。
- 周辺の自然景観の特性を損なうことなく、また、ダム堤体の持つ構造上の特徴を生かし、全体として魅力に満ちた景観となるよう配慮する。
大型治水ダムでは、周辺の自然に対しダムを強調する。小型ダムでは、周辺の自然に溶け込ませるよう配慮する。
- ダム・堰堤の建設によって、優れた自然環境や歴史、文化遺産を喪失する場合が少なくないので、周辺の環境、景観に与える影響を少なくする位置、配置を検討する必要がある。
また動植物など自然生態系の保全に配慮する必要がある。
- 地域の観光、レクリエーションなどの整備計画と整合した、景観的に付加価値の高い良好な景観と新しい水辺空間を創出することも配慮する。



御部ダム（三隅町）
雄大で見る人を圧倒



永泉寺谷川（大田市）
周辺の自然に溶け込んでいる石張り工法

●位置

- ・景観を保全すべき地域においてダム・堰堤の新設をやむを得ず計画する場合は、周辺の景観に対する十分な配慮を行う。
- ・主要な視点場から視覚的に認識されないよう工夫する。
- ・景観的に価値の高い資源の存在する地点から極力離れた位置とする。

- ・大型治水ダムでは位置の選定に当たって自然、歴史、文化的に優れた地域が存在する場合は、その地域からダムサイト及び水没地域をできる限り避ける。やむを得ない場合は、それらへの影響を最小限に抑えるよう工夫する。また、めずらしい保護すべき植物などで、残せるものは極力残すか、移転可能な場合は移転する。

4. 3 設計等の配慮事項

■ダム・堰堤

1. ダム及び堰堤の本体は、安全性や機能に支障のない範囲内で、周辺の景観と調和した意匠となるよう配慮すること。
2. 附属施設は、意匠、素材及び色彩が周辺の景観と調和するよう配慮すること。

●本体

○形態・色彩等

- ・コンクリート表面の形状および色彩に変化をつける。
- ・形状については化粧型枠の使用、打設目地を強調する、現地採取の自然石を活用するなどの工夫をする。
- ・色彩については部分的な着色を考えることもよい。
- ・コンクリート表面を汚れにくくする工夫をする。
- ・表面塗装、天端排水の工夫や水きりをよくするなどが考えられる。



大杉谷川（三隅町）
擬石型枠・アートパネルを使用している



千本ダム（松江市）
玉石張りの堤体

●周辺施設

○素材・意匠・色彩

- ・ダムに関連する施設については、意匠、素材及び色彩に配慮し、できる限り周辺の景観に調和するよう工夫する。
- ・ダム・堰堤の建設に伴って生み出される余裕地を積極的に活用し、意匠、素材及び色彩に配慮した親水施設・眺望園地などを整備する。



葛根薮川（美都町）

周辺の「みと自然の森」公園に合わせ石積工法を採用している

○緑化

- ・自然と構造物の調和を図るために、工事により損なわれた自然の復元も含めて積極的に緑化修景を行う。



浜田ダム（浜田市）

ダム湖周辺は桜の花で美しい